

情報公開用文書

2010年1月～2015年12月に当院にて卵巣がんに対する手術を受けた方へ

「子宮内膜症関連卵巣癌におけるミスマッチ修復タンパク異常に関する研究」の実施について

1. 本研究の意義および目的

子宮内膜症の一部から卵巣癌が発症することがわかってきましたが、その原因は明らかとなっておりません。最近の研究でミスマッチ修復遺伝子（遺伝子に生じた“きず”を治す役割をもった遺伝子）に異常があった場合、癌が発症することが一因としてわかってきました。今回調査を行い、本邦での子宮内膜症関連卵巣癌へのミスマッチ修復遺伝子の関わりや頻度を明らかにします。

2. 研究の方法

全国の国立病院機構の関連病院で、卵巣がんとして手術を受けられた患者さんで、子宮内膜症関連卵巣癌（主に卵巣類内膜癌、明細胞癌）と診断された方のカルテから診療情報を調査します。各施設に保管されている卵巣癌の組織標本（大腸癌を併発していた人は大腸がんの組織標本）よりミスマッチ修復タンパクを染色し、その異常率と臨床的特徴について調べます。取得した診療情報には番号を付与し個人が特定できないようにします。

3. 試料等の保存および使用方法について

本研究で収集した患者さんの試料や情報は施錠可能な保管庫で保存し、本研究以外で使用することはありません。ただし、今回の検討で追加の検討などが必要となった場合（二次利用と言います）は、新たな研究内容を該当する倫理審査委員会にて審査し、承認された後に患者さんの試料・情報を利用する可能性はあります。

4. 研究全体の期間と予定症例数

研究期間は倫理審査承認後 2017年4月より2019年3月末まで、予定症例数は研究参加病院で約350例、内 当院では15例を予定しております。

5. 研究結果の公表について

本研究の成果は婦人科腫瘍学に関係する全国学会、国際学会および学術雑誌で発表いたします。その場合、個人が特定されるような情報は公表されません。

6. 研究の開示について

この研究について、さらに詳しい内容を知りたい場合は、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画、方法（および結果）についての資料を見ることができます。希望される場合は、担当医師にお伝えください。また、本研究で得られる個人の結果について、研究対象者への開示は一切行いません。

7. 個人情報に関して

個人のプライバシーに関する情報は守られ、個人が特定されることはありません。

8. 本研究への参加を拒否する場合

本研究への参加を希望されない場合は、研究対象といたしませんので、必ず以下（10）の連絡先までご連絡ください。

9. 研究機関、研究責任者および研究者

【研究機関】 国立病院機構 四国がんセンター

【研究責任者】 婦人科 竹原和宏

10. 連絡先

〒0245-8575 横浜市戸塚区原宿3丁目60番2号

国立病院機構 横浜医療センター

産婦人科 鈴木理絵、窪田與志

TEL：045-851-2621

本研究への参加を希望されない場合は、連絡先までご連絡下さい